

本当の教えに出会うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第50号

発行:2016年9月13日
発行者:浄土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
副住職 天野英昭
〒739-0147 東広島市八本松西6丁目10番1号
TEL・fax(082)428-0160・(082)428-1360

秋彼岸法座

日時 9月29日(木) 9:00~15:00頃
朝席 9:00~11:30 昼席 13:00~15:00
ご講師 伊川 大慶 師(三次市 西覚寺副住職)



第59回歎異抄輪読会

日時 9月21日(水) 19:00~20:30頃
ご講師 松田正典先生(広島大学名誉教授)

費用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です。

仏壮からのお知らせ

★天龍寺仏教壮年会 月例会 9月30日(金) 19:00~20:30

磯松天龍寺墓苑並びに磯松天龍寺墓苑合同墓合同参拝のお礼

今年も8月12日(金)の18:00から磯松天龍寺墓苑にて合同参拝をさせていただきました。また、今年も昨年同様、多くの方のご参拝をいただきましたこと感謝申し上げます。さらに過分なるお供えも頂戴しました事、重ねて感謝申し上げます。

磯松天龍寺墓苑・磯松天龍寺墓苑合同墓参拝も約30年が過ぎました。この度ご出席いただきました奥様が「天龍寺さん、磯松天龍寺墓苑が出来た頃は、お墓も少なかったのに多くのお墓が建ちましたね。等々・・・」とほほ笑みながら、優しく言って下さいました。ありがたいお言葉をいただいたと感謝した事でもあります。

偉そうにこの度のご法要の際にも申しましたが、磯松天龍寺墓苑・磯松天龍寺墓苑合同墓にご関係をいただいております方の中には、遠くは鹿児島・滋賀・東京・千葉等と遠方のかたともご縁を頂いています。

本当に不思議なご縁の中での出会いを当山なりにこれからも大切にさせていただければありがたいと存じます。



罪の意識（罪等が、そのままお念仏の種へ）

偉そうに申せませんが、人にはそれぞれ罪の意識というものが、心の奥にあるものかもしれません。私にも、心の中に多くの罪の意識があります。一番大きなものは、私が23歳の時に癌で亡くなった母に対する思いです。小さな寺に生を受けましたが、癌で苦しんでいる母を、寺を継がないと死ぬまで苦しみ・悲しめさせた事です。今でも「もっと母に優しい態度がとれなかったか。もう少し私なりに母の心を受け止める事が出来なかったか等々。」また、思春期時代の放蕩三昧な生き方等、さらに社会人になり、教員時代から現在に至るまで、これまでの人生を振り返り、歴史には

「^{イフ}if（もしあの時・・・）」はありませんが、やり直せるならやり直したい事等が多くあります。しかし、これからもさらに反省・後悔の種を作り続けていくであろう、人生をおくる自分があると実感することもあります。

「あのような事をしなければよかった。もっとあのようにしておけばよかった等々。」の反省・後悔は、細川先生のお言葉をお借りしますと自分の犯した罪等を知性で対象化していると書かれていました。

確かに知性は、物事を善・悪、大・小、長・短等に分けて考えます。決して知性を否定しているわけではありませんが、その意味に於いて知性を基盤に生きていく限り、反省・後悔も含め罪の意識は無くならないのかもしれませんが。

犯した罪は無くならないと思います。しかし、「観無量寿経」の中に「浄業罪障」という言葉があります。先生はこの事を、罪を取り除く等と表現され、仏教の大きな役割とも書いておられました。まさしく歎異抄第1章「弥陀の誓願不思議にたすけられ・・・」のお言葉の如く、自分の反省・罪意識がお念仏の種になる所に「救い」「たすけらる」があるのかもしれませんが。

ただ一方で、今述べましたように自分の都合の良いように、仏教を利用・道具化している自分が、存在していることも事実だと思います。

幼少期から知性を基盤に生き、さらに自分なりに知性を磨いてきたつもりでいる私には、罪等を対象化せず、先生のお言葉では罪などを背負っていく人生、さらにその罪などをお念仏の種として生きていく事は、本当に難しく・私には無理な事のように思えます。

ただ、私なりに罪意識を抱えながら、少しでもお念仏の種にできることが出来たらありがたいなと思うこともあります。

最後に、先生は自分がしでかした失敗、過去のそういった出来事を自分が、背負っていく、「自分の^{ごう}業として受け入れる等」と表現されていました。

「業」という言葉に先生は、色々と抵抗があり、苦勞を重ねられ、最後に先生が辿りつかれた「業」の解釈は、「全てを許し、全てを受け入れる。」と書かれていました。

頭の部分では、理解できる事もありますが、「全てを許し、全てを受け入れる。」この生き方は、今の私では出来ない事があります。私が許せない事を受け入れていく事は、私が私でなくなると思う事もあります。これも小さな自己中心的な狭い世界で、私というものに執着しているためだと理解していながら出来ないでいます。自分は本当に哀しい存在だと思う事があります。

南無阿弥陀仏・南無阿弥陀仏

